

PRESS RELEASE

2010.11|9(火)-12|19(日)

東京国立近代美術館

# 麻生三郎展

## ASO SABURO



《ひとり》  
1951年  
油彩・キャンバス  
100.0×80.5cm

### 展覧会のポイント

**麻**生三郎（1913-2000）は戦中から戦後にかけて、人間の存在をいかに表現するか探求し続けた油彩画家です。

**油**彩、素描、立体あわせて約130点でその全体像を回顧。本格的な個展としては実に15年ぶりとなります。

**代**表作はもちろん、戦前の裸婦素描や晩年の立体など、初公開の作品も！

**没**後10年を経て、その重厚で深い世界を改めて見直します。

**展**覧会は東京、京都、愛知を巡回します。

お問い合わせ先  
イメージ貸出・取材：企画展室  
TEL：03-3214-2564 FAX：03-3214-2576  
e-mail：pr@momat.go.jp

<b>展覧会名</b>	麻生三郎展
<b>会期</b>	2010年11月9日(火)～12月19日(日)
<b>開館時間</b>	午前10時から午後5時まで 金曜日は午後8時まで (入館は閉館30分前まで)
<b>休館日</b>	月曜日
<b>会場</b>	東京国立近代美術館 1階企画展ギャラリー
<b>主催</b>	東京国立近代美術館、京都国立近代美術館
<b>出品協力</b>	神奈川県立近代美術館
<b>アクセス</b>	東京メトロ東西線 竹橋駅1b出口 徒歩3分
<b>観覧料</b>	一般850(600)円 大学生450(250)円 ( )内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。 * 上記料金で入館当日に限り、同時開催の「鈴木清展」、 所蔵作品展「近代日本の美術」もご覧いただけます。
<b>お問合せ</b>	03-5777-8600(ハローダイヤル)
<b>HP</b>	<a href="http://www.momat.go.jp">http://www.momat.go.jp</a>
<b>記者内見会</b>	2010年11月8日(月)13:30～14:45 (14:00より講堂で記者発表を予定)
<b>イベント</b>	<p>■講演会</p> <p>2010年11月20日(土)14:00～15:30 大谷省吾(当館主任研究員・本展企画者)</p> <p>2010年12月4日(土)14:00～15:30 酒井忠康(世田谷美術館長)</p> <p>■ギャラリートーク</p> <p>2010年11月26日(金)18:00～19:00 松本透(当館副館長)</p> <p>2010年12月10日(金)18:00～19:00 都築千重子(当館主任研究員)</p>
<b>巡回情報</b>	2011年1月5日(水)～2月20日(日) 京都国立近代美術館 2011年4月29日(金・祝)～6月12日(日) 愛知県美術館
<b>同時開催</b>	鈴木清展 ギャラリー4(2階) 2010年10月29日(金)～12月19日(日) 所蔵作品展「近代日本の美術」(4～2階) 2010年10月23日(土)～12月19日(日)
<b>次回展覧会</b>	「日本画」の前衛 1938-1949 2011年1月8日(土)～2月13日(日)
<b>プレゼント</b>	記事をご掲載いただける場合、 「読者プレゼント」用に招待券をご用意しております。 枚数は応相談。ご希望の方はご連絡ください。

## 15年ぶりの回顧展で画家の全貌を探る

絵画の本質を粘り強く探究し続けた画家、麻生三郎。見れば見るほど、彼の絵は多くを語りかけてきます。時間をかけて、じっくり味わう絵画。その豊かな世界をご紹介します。本格的な回顧展としては実に15年ぶりとなる今回の展覧会では、初公開作品を含む油彩、素描、立体あわせて約130点により、その画業を検証します。

### 戦中戦後の困難のなかで個を貫く

麻生三郎は1913年、東京に生まれました。はじめは前衛的な絵画に関心を持ちますが、1938年にヨーロッパを旅して写実の重要性を再認識します。1943年には鬘光や松本竣介らと「新人画会」を結成し、戦時下の困難な状況においても個としての表現を貫きました。そして戦中から戦後すぐにかけて、彼はくりかえし家族を描きました。——まるで、それだけが信じられるものだというかのように。



《自画像》  
1937年  
油彩・キャンバス  
45.5×38.0cm  
東京国立近代美術館

模索の時期、麻生は自身をモデルにさまざまなスタイルでの表現を試みました。見る者を威嚇するような、不安を抱えたような、複雑な表情が印象的な一枚。



《男》  
1940年  
油彩・キャンバス  
91.0×72.7cm  
茨城県近代美術館

ヨーロッパ旅行で古典絵画に触れてまもなく描かれた作品。闇のなかで皿を口にしながら、こちらを鋭く見つめる男。戦時中の画家の心境が伝わってきます。



《母子》  
1948年  
油彩・キャンバス  
91.0×60.5cm  
東京都現代美術館

戦中から戦後すぐにかけて、麻生はくりかえし家族を描きました。「ひどい生活のなかで、子供はわたしたちの生活のささえになっていた」と麻生は言います。

## 社会に向き合いながら 人間を描く

やがて、人物たちの周囲に街が描かれるようになります。《赤い空》の連作です。「この空の層のあつみのなかにはわれわれをおしつぶす力がひそんでいる」と麻生はいいます。常に社会に対する緊張感を持ちながら、彼は人間の存在を描き続けました。

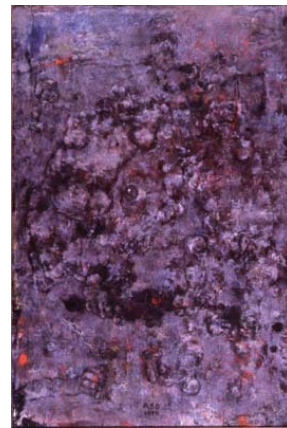


《赤い空》  
1956年  
油彩・キャンバス  
116.5×91.0cm  
東京国立近代美術館

「この絵の風景の部分は人間と同じ強さでこの画面に存在している」と語る麻生。人間存在をおびやかそうとする社会の空気と、それに抗う人の姿とが、力強く対比されています。

## 空間のなかのかたちを追求する

空間のなかに人や物が存在することを、二次元の平面上にいかにかわすか。この問題を突き詰めていくうちに、1960年代以降、麻生の絵はほとんど抽象絵画のようになりました。ちょっと見ただけでは、何が描いてあるかわからないくらい、画面は混沌としています。けれども、絵の前に立ち止まって、じっと見つめていると、少しずつ形が浮かび上がってきます。そして、人がこの世に存在することのかけがえのなさを、語りかけてくるのです。



《ある群像3》  
1970年  
油彩・キャンバス  
194.0×130.0cm  
神奈川県立近代美術館

時間をかけて絵を見つめると、混沌とした空間のなかから、次第に人の姿が浮かび上がってきます。人と空間とがせめぎあい、画面に緊張がみなぎります。

## もうひとつの側面、デッサンの魅力

本展覧会では、油彩作品と並んで素描も重点的にご紹介します。とりわけ1950年代末からの素描では、かたちの内部から空間の拡がりのなかへ、手や眼や身体が自由に展開していくのを認めることができます。ときにはユーモアすら感じさせるその素描には、晦渋な油彩とはちがった画家の別の顔が窺えます。途切れ途切れの線、強く太い線、ゆるるように震える線。さまざまな線の呼吸が直接的に感じられる素描は、油彩作品を読み解く上でも、重要な役割を果たしてくれます。

\*素描作品の一部は会期中、展示替があります。



《男の像》  
1963年  
色鉛筆、鉛筆・紙  
36.9×29.4cm

空間のなかに解体していきそうな男は画家自身でしょうか。自らを一個のモノのように突き放して観察する冷徹さと同時に、軽妙さも感じさせます。



1967年  
アトリエにて

ものを正視するのはたやすいことではない

だがものを見るということ

避けるわけにはゆかない

その混沌そのものにぶつかる

わたしが見たものはカタチにする

目は見ることによって強くなる

(麻生三郎「仕事をしながらのできごと」  
『麻生三郎作品展』図録、  
武蔵野美術大学美術資料図書館、1984年)

## 麻生三郎 略歴

1913(大正2)年	東京に生まれる。
1930(昭和5)年	太平洋美術学校に学ぶ。松本竣介らと出会う。
1938(昭和13)年	渡欧。フランス、イタリアを中心に多くの美術作品を見る。
1939(昭和14)年	美術文化協会の結成に参加。
1943(昭和18)年	新人画会を松本竣介、鬘光らと結成する。
1945(昭和20)年	空襲で多くの作品を焼失。
1947(昭和22)年	自由美術家協会に参加(1964年まで)。
1952(昭和27)年	武蔵野美術学校(のち武蔵野美術大学)で教える。
1963(昭和38)年	芸術選奨文部大臣賞受賞。
1979(昭和54)年	東京都美術館で回顧展。
1994-1995 (平成6-7)年	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、三重県立美術館で回顧展。
2000(平成12)年	死去(享年87歳)。

広報用写真申込書

お名前: \_\_\_\_\_ ご所属: \_\_\_\_\_

出版物・放送番組名: \_\_\_\_\_

メディアの形態: 新聞／雑誌／コミュニティ紙／フリーペーパー／その他( ) \_\_\_\_\_

TV／ラジオ／webサイト／携帯サイト／その他( ) \_\_\_\_\_

発行・放送予定日: \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( ) \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ ~ \_\_\_\_\_ :

ご住所: 〒 \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_ e-mail: \_\_\_\_\_

連絡欄: \_\_\_\_\_

ご希望データの口に チェックをつけてください	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>	④ <input type="checkbox"/>
図版				
キャプション	《ひとり》 1951年	《自画像》 1937年 東京国立近代美術館	《男》 1940年 茨城県近代美術館	《母子》 1948年 東京都現代美術館
ご希望データの口に チェックをつけてください	⑤ <input type="checkbox"/>	⑥ <input type="checkbox"/>	⑦ <input type="checkbox"/>	⑧ <input type="checkbox"/>
図版				
キャプション	《赤い空》 1956年 東京国立近代美術館	《ある群像 3》 1970年 神奈川県立近代美術館	《男の像》 1963年	1967年 アトリエにて

プレス・イメージ貸出条件

1. 写真は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。
2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。
3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いします。
4. 作品写真は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
5. 写真を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するキャプションをご記載ください。
6. 掲載紙(誌)は、1冊、企画展室宛にご寄贈ください。web サイトの場合は掲載時にお知らせください。

※写真は画像データ (JPEG) にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。  
 ※掲載前に校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方で負いかねます。